

【資料 3】

地域スポーツ振興組織の在り方検討会について



スポーツ庁 参事官（地域振興担当）

2020年10月6日

地域スポーツ振興組織の在り方検討会の背景・目的

◆事業背景

スポーツツーリズム・ムーブメント創出事業（スポーツツーリズム需要拡大に向けた促進強化事業）では、2017年度より、「官民連携協議会」を形成し、スポーツツーリズムの国内外マーケティング調査や官民連携プロモーションを実施し、その中でスポーツツーリズム関心層は国内外に多く存在することが確認されている。2018年3月には、「スポーツツーリズム需要拡大戦略」が策定され、i) 地域の意識啓発及びコンテンツ開発・受入体制強化に向けた支援、ii) 国・企業・地域・団体等の連携強化、iii) 需要拡大のための官民連携プロモーションという3軸から、スポーツツーリズムの需要拡大を目指して展開する10の施策が定められた。

この「スポーツツーリズム需要拡大戦略」において注目されるべきは、新規重点テーマの設定である。前段の調査において、「アウトドアスポーツ」と「武道」の体験・見学は、我が国の強みを発揮でき、国内及び訪日個人旅行者の需要拡大に有望な分野であるとされたことから、「**アウトドアスポーツツーリズム**」（スノースポーツ、サイクリング、トレッキング、ウォーキング等）と「**武道ツーリズム**」（空手、柔道、剣道、大相撲等）が新規重点テーマとして設定された。かかる「スポーツツーリズム需要拡大戦略」を受けて、2019年度より新たに「武道ツーリズム研究会」も組成され、スポーツツーリズム需要拡大のための官民連携協議会と合わせて全3回の会議が開催され、スポーツツーリズムの更なる定着・拡大に向けた議論がなされてきたところである。

◆スポーツツーリズム・ムーブメント創出事業（スポーツツーリズム需要拡大に向けた促進強化事業）の実施方針

2020年度は地域や分野をさらに特定して深掘りすることを目的に、3つの研究会（インバウンド拡大に向けたスポーツツーリズム研究会、アーバンスポーツツーリズム研究会、**地域スポーツ振興組織の在り方検討会**）に改組し、各研究会をこれに関連する新たなメンバーにより開催する。

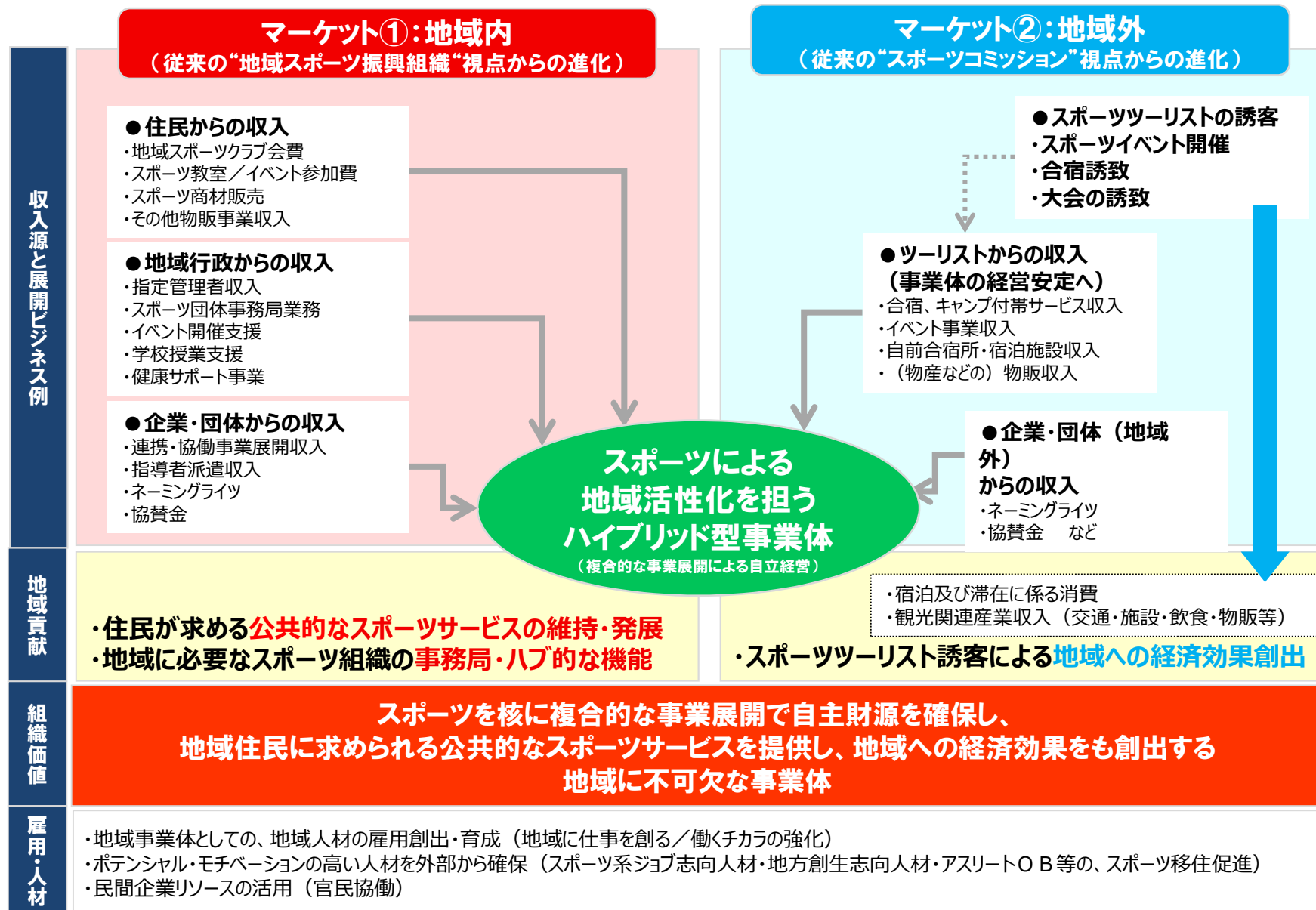
※詳細は事務局補足資料①、②を参照

◆地域スポーツ振興組織の在り方検討会開催の目的

地域スポーツ振興組織の在り方検討会は、**2016年度のスポーツ庁主催「スポーツによる地域活性化を担う事業体についての検討会」をブラッシュアップする形で、地域におけるスポーツツーリズム推進主体となる組織（事業体）の発展に資する今後の施策立案に活用**することを目的とする。

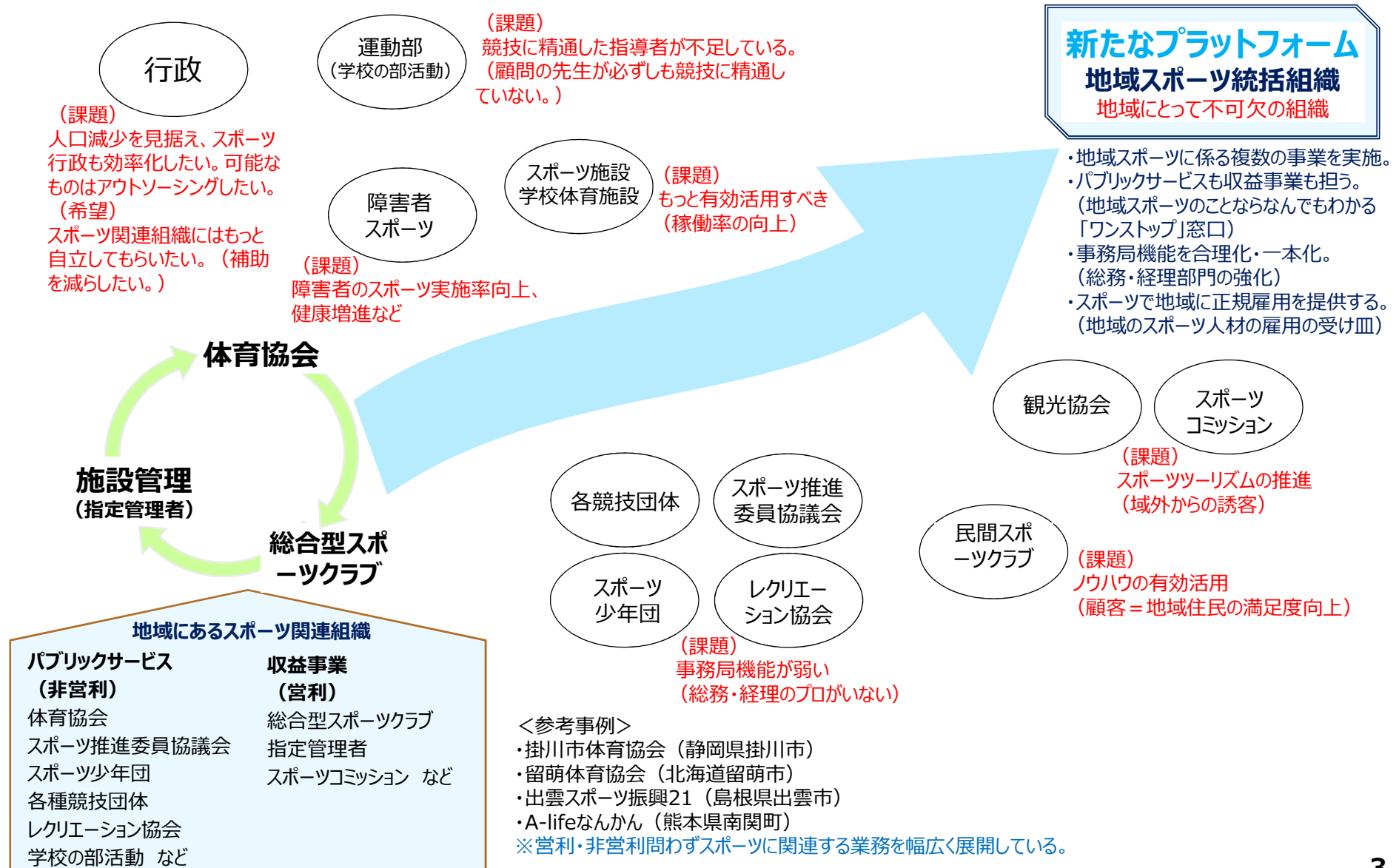
地域スポーツコミッションをはじめ、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ競技団体、民間スポーツクラブ等、地域スポーツを振興する組織は数多く存在するが、その大半は、自立・自走可能な組織経営が出来ていないといった同様の課題を抱えている。また、これら組織間での連携も十分に図られていないなど、効率的に機能していないという現状もある。そこで、昨年度実施された「地域スポーツの振興に関する調査研究」も踏まえた上で、**組織における自主財源の確保、地域住民へのサービス提供、経済効果・雇用の創出等を行う事業体への展開方針**について討議する。

【2016年度のスポーツによる地域活性化を担う事業体についての検討会で生まれた考え方】ハイブリッド型事業体



地域スポーツ振興組織からハイブリッド型事業体へ (イメージ図)

※パブリックサービスと収益事業をともに担う事業体



地域スポーツコミッションの要件

スポーツで「社会」を変える！

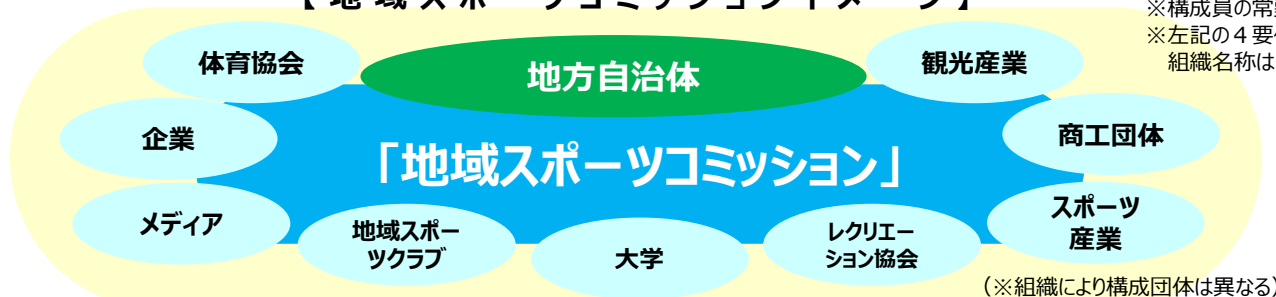
スポーツによるまちづくり・地域活性化の推進のためには、
地域における推進役：「地域スポーツコミッション」の拡大が必要。



地域スポーツコミッション

- 「要件1」 常設の組織であり、年間を通じて活動を行っている。（時限の組織を除く）
- 「要件2」 スポーツツーリズムの推進、イベントの開催、大会や合宿・キャンプの誘致など、スポーツと地域資源を掛け合せたまちづくり・地域活性化を主要な活動の一つとしている。
- 「要件3」 地方自治体、スポーツ団体、民間企業（観光産業、スポーツ産業）等が 一体となり組織を形成、または協働して活動を行っている。
- 「要件4」 特定の大会・イベントの開催及びその付帯事業に特化せず、スポーツによる地域活性化に向けた幅広い活動を行っている。

【地域スポーツコミッションイメージ】



スポーツによるまちづくり・地域活性化活動支援事業

(前年度予算額 65,456千円)
令和3年度概算要求額 165,686千円



地方自治体、スポーツ団体、民間企業（スポーツ産業、観光産業）等が一体となり、地域活性化に取り組む組織である「地域スポーツコミッション（地域SC）」の設立から自走化までの流れを支援し、取組の横展開を図ることにより、スポーツによる地域活性化を推進する。

- ① **設立支援**…ホストタウン等の官民連携横断的な組織を地域SCに発展させるため、関係者合意形成や基本計画の策定等の活動を支援
- ② **自立支援**…コロナ禍における活動再開、新たな事業計画の策定、自走化に向けた経営体制強化を図る積極的な活動を支援
- ③ **総合コンサルティング**…補助効果の最大化を図るため、①②の採択先に対し、専門的知見を有する事業者から、各種計画策定や事業実施に関する助言・協力・提言等を行うとともに、事業成果や課題・対応策等の考察を含めた報告書を作成



【地域への社会的効果】

- スポーツのまちとしてのアウトターブランディング、
- ローカルアイデンティティ・地域一体感の醸成
- 地域スポーツ人口・関心層の拡大
- 季節・年間を通じての誘客による、従事者の雇用安定

スポーツによる持続的なまちづくり・地域活性化へ

創出された優良事例を、
全国へ横展開

【地域への経済効果】

- 合宿参加者・スポーツツーリストの滞在に係る消費（宿泊・飲食・観光・物販など）
- スポーツアクティビティの参加料収入

スポーツによる地域の価値向上プロジェクト

(前年度予算額 185,707千円)
令和3年度概算要求額 281,167千円



スポーツと地域資源を融合させたスポーツツーリズム等を通じて交流人口の拡大及び地域・経済の活性化を図るため、地域単位ではポストコロナを見据えた**高付加価値コンテンツの創出に向けたモデル的な取組等を実施**し、全国単位では**ネットワーク構築・強化、新たな戦略検討、プロモーション等を実施**する。また、コロナ禍においても**海外武道愛好家向けにオンライン指導を実施**することにより、関係を維持・強化しつつ、将来的な訪日に繋げる。

① 地域スポーツ資源を活用したグローバルコンテンツ創出事業

スポーツと各地域が誇る地域資源を掛け合わせたコンテンツの磨き上げや環境整備等をモデル事業として実施。



(取組例) 景観・環境・生活等を**サイクリング**で有機的に連携し、広域コンテンツを創出



(取組例) **武道**と歴史・文化等を融合させた稀少性の高い体験コンテンツを創出

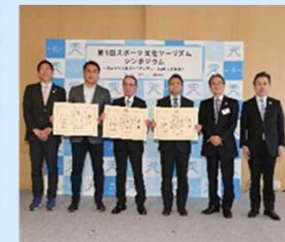


人・施設情報等を顕在化させるデータベースを拡充、円滑なコンテンツ造成を促進。

② スポーツツーリズム・ムーブメント創出事業

スポーツツーリズムの課題解決・マーケット拡大のための検討会等を実施。

スポーツ庁・文化庁・観光庁が連携し、「スポーツ文化ツーリズム」を推進。



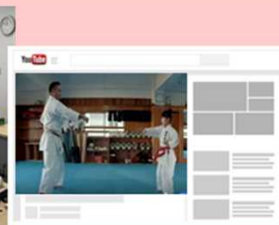
官民連携戦略検討会議

3庁長官によるアワード表彰・シンポジウム開催

③ 武道ツーリズムによる地域活性化推進事業

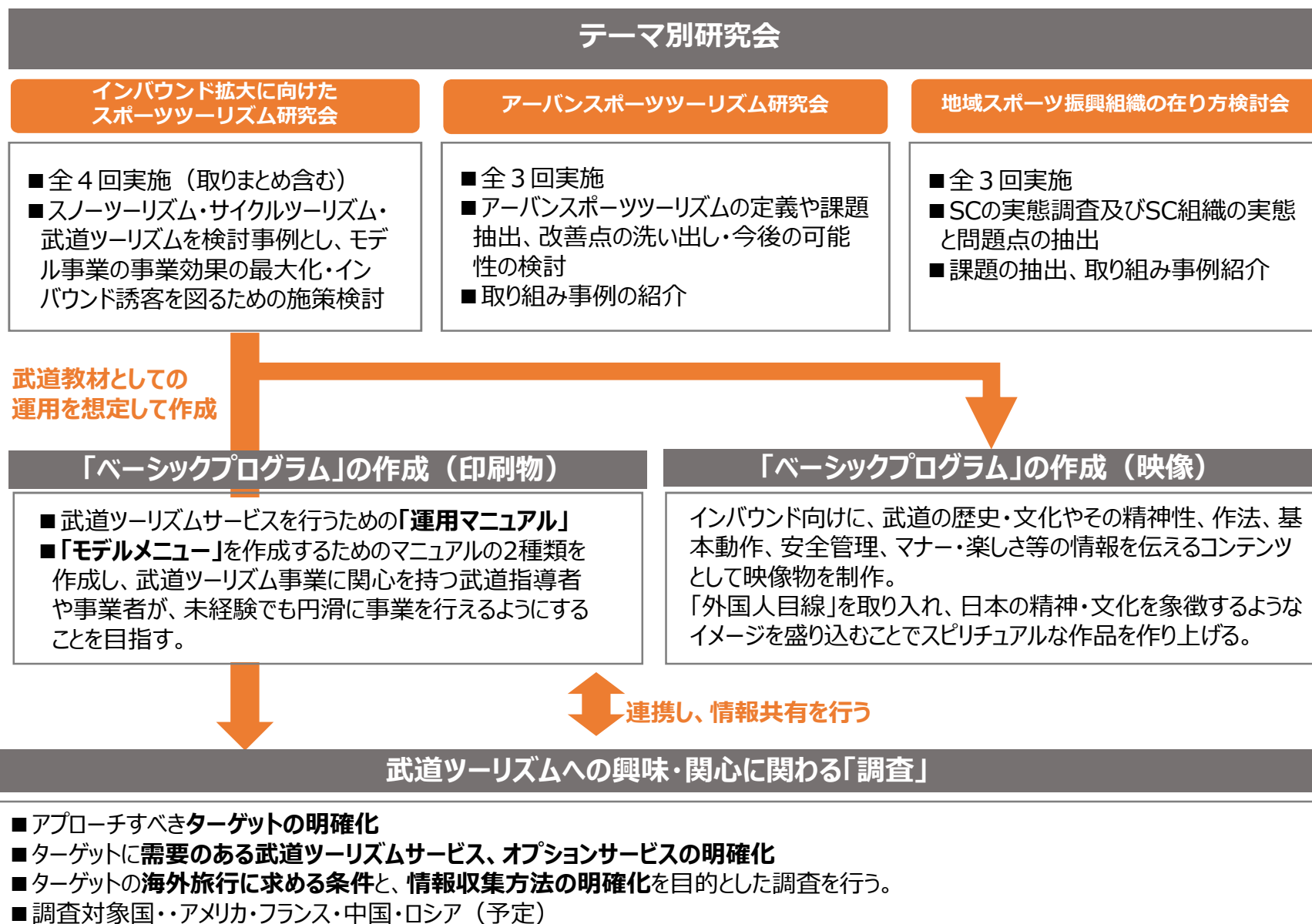
武道ツーリズム推進方針に基づき、課題であるネットワーク構築、プロモーションを実施。

コロナ禍においてもデジタル技術を活用し、海外武道愛好家向けにオンライン指導を実施。



ネットワーク構築・強化、国内外プロモーション

武道のオンライン指導



	地域スポーツ振興組織の在り方検討会 実施概要（案）	
第 1 回 10/6	メインテーマ：SCの実態調査・組織の実態や課題紹介	
	SCの実態に関する討議・課題提示 <ul style="list-style-type: none"> ■各委員の活動概要共有 ■SCの実態共有・課題提示 ■先進的SCの活動共有 等 	SCの実態を共有し、そこから想定される課題点を抽出し共有をする。
第 2 回 11月 予定	メインテーマ：事例紹介	
	各委員事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> ■組織実態 ■事例の紹介・討議（1回目研究会に基づく） ■3回目に向けた検討 等 	1回目の研究会にて討議された内容をもとに、さらに事例を共有し深掘りしていく。
第三回 1月 予定	メインテーマ：提案に向けたテーマ別議論	
	それぞれの提案に向けたテーマ別議論 <ul style="list-style-type: none"> ■各委員それぞれの資料をもとに討議 ■提言のまとめ ■今後の地域振興の在り方について討議 等 	事務局でテーマ設定を行い、それぞれのテーマに沿って最終の提言をまとめ今後の在り方を検討する。

第2期スポーツ基本計画の概要

(参考資料)

スポーツ基本計画・・・スポーツ基本法(2011(平成23)年公布・施行)に基づき、文部科学大臣が定める計画。第2期は2017(平成29)年度～2021(平成33)年度。



ポイント1

スポーツの価値を具現化し発信。
スポーツの枠を超えて異分野と積極的に連携・協働。

～ **スポーツが変える。未来を創る。 Enjoy Sports, Enjoy Life** ～

「**人生**」が変わる！「**社会**」を変える！「**世界**」とつながる！

スポーツで
人生を**健康で生き生き**と
したものにできる。

共生社会、健康長寿社会の
実現、経済・地域の活性化
に貢献できる。

多様性を尊重する世界
持続可能で逆境に強い世界
クリーンでフェアな世界
に貢献できる。

「**未来**」を創る！

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を好機として、
スポーツで人々がつながる国民運動を展開し、
レガシーとして「**一億総スポーツ社会**」を実現する。

2

**スポーツを通じた
活力があり絆の
強い社会の実現**

障害者のスポーツ実施率(週1)
19% ⇒ **40%**

スポーツを通じた健康増進

女性の活躍促進

スポーツ市場規模の拡大
5.5兆円 ⇒ **15兆円** (2025年)

スポーツツーリズムの関連消費額
2,204億円 ⇒ **3,800億円**

戦略的な国際展開
100か国以上1,000万人以上にスポーツで貢献
2020年東京大会等の円滑な開催

など

ポイント3

障害者スポーツの振興やスポーツの
成長産業化など、**スポーツ庁創設後**
の重点施策を盛り込む。

4

**クリーンでフェアな
スポーツの推進**

インテグリティ(誠実性・健全性・高潔性)を高める

コンプライアンスの徹底
スポーツ団体のガバナンス強化
ドーピング防止

3

国際競技力の向上

オリンピック・パラリンピックにおいて
過去最多の金メダル数を獲得する等
優秀な成績を収められるよう支援

中長期の強化戦略に基づく支援
次世代アスリートの発掘・育成
スポーツ医・科学等による支援
ハイパフォーマンスセンター等の充実

ポイント2

数値を含む成果指標を第1期計画に
比べ大幅に増加(**8⇒20**)。

1

「**する」「みる**」
「**ささえる**」
**スポーツ参画人口
の拡大**

スポーツ実施率(週1)
40% ⇒ **65%**

スポーツをする時間を
持ちたいと思う生徒
60% ⇒ **80%**

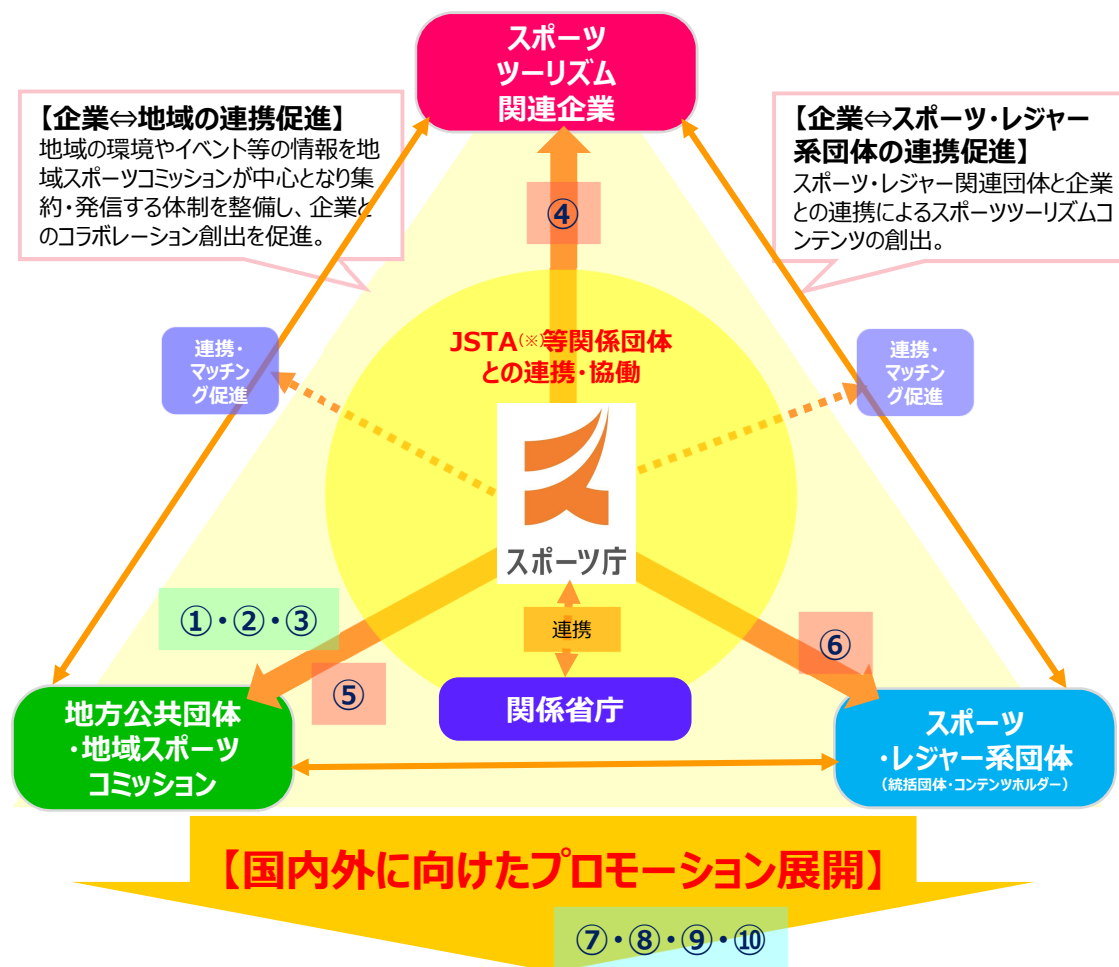
スポーツに関わる人材の確保・育成

総合型地域スポーツクラブの
中間支援組織を整備 **47都道府県**

学校施設やオープンスペースの有効活用

大学スポーツアドミニストレータ
を配置 **100大学**

など



【国内・海外マーケット】
日本国内でのスポーツツーリズムへの関心喚起、来訪・体験意欲の拡大

世界に誇る日本の自然資源を活用した「**アウトドアスポーツツーリズム**」と世界の関心が高い日本発祥・特有の「**武道ツーリズム**」を重点テーマに設定。

スポーツツーリズムの需要拡大を目指し 展開する**10**の施策

◆地域の意識啓発及びコンテンツ開発・受入体制強化に向けた支援

- ① マーケティングデータや優良事例等の地方公共団体・事業者への提供による地域の意識啓発
- ② 支援事業の実施による地域の新たな取組の促進
- ③ スポーツアクティビティ拠点の国内外への発信による認知度向上

◆国・企業・地域・団体等の連携強化

- ④ スポーツツーリズム応援企業等のネットワーク化・マッチングの促進
- ⑤ 地域スポーツコミッションの増加と強化
- ⑥ スポーツ・レジャー系団体等のツーリズム意識啓発によるコンテンツ創出

◆需要拡大のための官民連携プロモーション

- ⑦ 日本のスポーツツーリズムの魅力を発信する映像の制作・発信
- ⑧ 省庁間連携による総合的な日本の魅力発信
- ⑨ 官民が一体となったデジタルプロモーション等の実施
- ⑩ 参加者自らが「誘う」、「発信する」仕組みづくり

(※) JSTA：一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構